

東京都病院協会 会報

東京都病院協会
医療共済制度 引受保険会社

メットライフアリコ 法人営業統括部
生命保険株式会社

東京都墨田区錦糸1-2-1
アルカセントラル4階
TEL: 03-5637-5250

2013年(平成25年)7月29日

第195号

毎月1回 定価200円(会員購読料は会費含む)

発行所: 一般社団法人東京都病院協会/ 発行人: 河北博文 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会館内306号
TEL:03-5217-0896 / FAX:03-5217-0898 / URL: http://www.tmha.net / E-mail: tmha@mri.biglobe.ne.jp

第九回東京都病院学会開催挨拶

「地域密着型病院—我々が地域を支える」

学会長 内藤 誠二
(内藤病院 理事長・院長)



学会長 内藤 誠二

約十年在籍し外科医としての修練に明け暮れた昭和大学外科医局を辞して、竣工となった五十三床の内藤病院の副院長となったのは一九九〇年八月のことでした。当時は一九八三年の医療費亡国論から医療費抑制が始まっており、それまで順調であった病院経営も厳しくなりつつある時期で、中には「いまどき小さな民間病院を建て直すなんて大変だぞ!」と脅かす先輩もいました。しかし、二代続いた病院の長男として生まれた私には、小学生のときから父の跡をついで病院を続けていくということが人生の目標であり、医局をやめて副院長となったことは人生のスタートラインに立つことと感じていました。もちろん今までやったことのない経営に対する不安は大きなものでしたが、それを打ち消すためにも一生懸命頑張れば何とかなるはずだと気持ち強く持ちました。

新病院スタート当初はバブル時に建てたため返済が大変で先行きの暗い時期もありましたが、自分が遅くまで病院にいて救急車を断らないなどの努力が実り、次第に外来受診者、入院患者も多くなり経営的に安定してきました。ところがあるとき、外来の受診者から、初台駅を出て「内藤病院はどこですか?」と聞いたところ「わからな」と返事があつたというのを聞いて大変ショックを受けました。当院は少し奥まっているとは言え、駅から徒歩二分のところにありますし昭和十五年から初台で開業しています。たまたまかもしませんが、「地域に根ざして医療を提供している」つもりでいた私は、内藤病院がこの地域に受け入れられているのか不安になりました。「地域医療」と謳っているが、その地域で医療を提供しているというだけで「地域医療」と言っているのではないのか、本当の地域医療とはどういうものなのか考えてしまいました。

一方、院内に目を向けてみると、看護師は全て准看護師でさらに入院患者には派遣の付き添い婦がついて患者のお世話をしており、看護師は医師の指示どりのことしかせず、実際のお世話は付き添い婦がしていたのが現状でした。しかし、そのころから「社会的入院」の解消、高齢者の入院比率の届出、さらに付き添い婦ははずし等、医療費抑制や病院の質の向上を目的として大きな変化がありました。医師としての修練しか受けてこなかった、それしか考えてこなかった自分にとっては何情報やアドバイスも無く経営していくことはさすがに困難と考えていたときに、大学医局の先輩から当時の東京都私立病院協会青年部会の「早朝勉強会」への参加を誘われました。毎週金曜日早朝六時半からという勉強会でしたが、同じ立場の人達との交流は初めてであり、学ぶことや共感できることが多く大変有意義で勇気付けられる会でした。さらにその会では「自分の病院は自分で守る」という精神が強調され、何かというと「厚生省が悪い」と思ってきた気持ちに大きなインパクトがありました。また当時その会で行なっていた「医療における信頼の創造」というシンポジウムに参加して「医療って信頼されていらないんだ!」「中小病院がどんな医療を提供しているかみんな知らないんだ!」等気づかされることが多くありました。

そのころから大学病院やセンター病院等はそれだけで医療の質が保証されブランド力と集客力がありますが、わ

れわれ地域密着型病院は何をセールスポイントとしていけばよいのか悩んでいました。そして専門病院は別としても、住民は地域にある病院がどういった内容の、そして質の医療を提供するのか知らないことに気づかされ、まずはみんなに病院のことを知ってもらうと考えるようになりました。

そんなとき、たまたま知人がクリスマスリースの作り方を教えていることを知って、病気ではない人にも病院に来てもらおうと年末にクリスマスリースを作る会を始めました。また、内藤病院のことを知ってもらうことを目的に、広報誌「内藤病院ニュース」を作りて発行開始しました。医療のレベルアップと連携を目的に、メーカーの協力を得て「生活習慣病セミナー」を開催、地域の住民向けに「生活習慣病講座」を定期的に開催しました。さら

へも地域の人を知ろうと、町会や長寿会への参加、「初台ふれあい祭り」、秋の代々木八幡例大祭に合わせて行なう「初台阿波踊り」への参加など、こち

理事会報告 (7月)

6月18日、定期総会での理事・監事の改選では、立候補者が定員に満たないため、立候補者全員が理事に承認され、理事の互選によって、河北会長が再任され、副会長には安藤高朗、稲波弘彦、猪口正孝、古畑 正、山口武兼、山田雄飛が任命されました。

7月16日、理事会において「渉外・広報・会員組織委員会」は、中西委員長から東海林委員長に、「急性期医療委員会」は、古畑委員長から小泉委員長に、「診療情報管理委員会」は、飯田委員長から山口委員長に委員長交代がありました。また、「事務管理部会」も宇佐美部会長から田野倉部会長に交代がありました。

また昭和女子大学の賛助会員入会が承認されました。

第9回東京都病院学会は、主題を「我々が地域を支える」として学会長内藤誠二、副学会長伊藤雅史、運営委員長山口武兼を三役に、平成26年2月16日(日)に日本青年館において開催されることになりました。

らから地域に出て行くようにしてきました。そういった中で「地域密着型病院」というのは医療従事者としてだけではなく、人として地域の住民のことを知ってこそ「地域密着型病院」と言えるのではないかという気持ちが膨らんできました。

以上がかつて診療所であった医療機関が病院へと拡大し大学病院並み、大病院に負けない医療を提供することを目標としてきた中小病院の歩んだ道です。

しかし、そうした活動により「地域に必要とされている病院」という意識は強いものの、それは診療報酬上ではなかなか評価されにくく、また、地域の病院の役割として広範囲な医療をカバーしていますが、それがかえって機能やアウトカムといった視点からの評価にはつながらない原因となっていると思われまます。特に最近のように手術数や検査数により評価されるランキング本などがもてはやされる時代ですと、「地域密着病院」は評価される規準がありません。手術件数や人数が規準を満たしているか等が診療報酬の基準であるため、規模が小さく職員数の少ない病院にとっては基準を満たすことは困難です。

機能別に見ても、大病院や大規模病院のような超急性期病院ではスケールメリットを活かすことや高点数の医療の提供で経営的なメリットもあります。慢性期としての役割に徹すれば療養型病院や回復期リハといった診療報酬上の立ち位置が明確なものとなりませんが、地域密着型の急性期病院は明確な機能を主張することができず、大切

な役割を担っていると自負している割には、グレーゾーンでひとまとめにされている気がします。

ランキング本に出てくるような、治療のために遠方からでも良い治療を求めて患者が集まってくる病院とは違い、地域密着型病院は地域の事情に合わせて機能している病院のためなかなか統一した病院像が見えにくかったところ、二〇〇一年九月に四病院団体協議会でまとめられた報告書で「地域一般病床」という概念がまとめられました。これは急性期医療を担う病院は、急性専門病床と地域一般病床との分化が望ましいとしたもので、急性専門病床は医療密度が高い急性期医療に特化した施設、地域一般病床はリハビリ機能・ケアマネジメント機能・高齢者にふさわしい急性期機能・後方支援機能・ターミナル対応をもつ施設とした概念であり、まさに地域(主として一次医療圏・生活圏)の医療を支える地域密着型病院(病棟)といえます。

実際の役割としては「急性期医療における連携」「重急性期(急性期後)の連携」「救急医療における連携」「在宅療養支援」が挙げられています。

項目だけ見ると、結局なんでもやるけど大病院・専門病院には及ばず、自分の望む医療を求めて移動する人には相手にされないということになってしましますが、高齢化社会においては特別な医療を求めてさまようのではなく、地域の生活圏の中で医療が提供されるのが重要です。この概念によって初めて、ベッド数ではなく機能という視点で地域密着型病院が定義されたものと思われまます。しかしながら、地域

で安心して生活が続けられることを支えるという意味では、医療の連携だけではなく、地域の福祉・介護、地域社会との連携も重要であり、特に高齢化社会において高齢者は自分だけで生活が成り立つわけではなく地域の支援者、ケアマネージャー等の支援が必要で、同様に医療を受けるに際しても同様の支援が必要です。これを踏まえると、地域密着型病院は医療連携だけでなく福祉・介護との連携が重要な時代になってきます。これまで広範囲な医療提供のため評価しにくいと言われていたのが、さらに広い機能を期待される時代になってきています。

しかしこれは病院がシステムを作ればできる機能でしょうか。医療においても、「病気だけを見るな、人を見ろ」とも言われていますが、地域に密着すればその人の生活も見えてきます。それを考慮して医療を提供して生活支援する、それが地域密着病院の意味だと思っっています。今回第九回の東京都病院学会では「我々が地域を支える」と題して地域密着型病院に目をむけたいと思

ます。もちろん「地域密着型病院」という決まった定義はありませんが、病院として地域の医療・ケアを支えていくためには急性期医療に対応できるべきだと考えます。ただし、実際には複数の疾患を持つ高齢者の対応が主となるためDPCでは役に立ってないでしょう。

地域に必要とされる病院を考えたとき、何よりもトップの人間をはじめとするスタッフが地域に興味を持ち、地域の人に目を向け、一人一人に合った対応ができる熱意を持った病院こそが「地域密着病院」と考えます。そのため

めに今回の学会では医療人だけではなく、生活を支える福祉・介護の方も呼びびして、地域の医療体制、その中で「地域密着病院」に望まれるもの、果たすべき役割について議論していきたいと思っいます。地域を愛している我々だからこそ、その役割があります。病気だけではなく、地域を知り、人を知ってこそその地域医療と信じています。熱意を持って頑張っている人、集まれ!

東京都病院協会新役員名簿

平成 25 年 6 月 18 日

特別顧問	福井 光壽	東京都医師会 元会長			
顧問	高木 邦格	国際医療福祉大学三田病院 理事長			
役職名	氏 名	経営主体	病 院 名	役 職	
会 長	河北 博文	社会医療法人財団	河北総合病院	理事長	
副会長	安藤 高朗	医療法人社団	永生病院	理事長	
	稲波 弘彦	医療法人財団	岩井整形外科内科病院	理事長	
常任理事	猪口 正孝	医療法人社団	平成立石病院	理事長	
	古畑 正	個人	古畑病院	院 長	
	山口 武兼	東京都保健医療公社	豊島病院	院 長	
	山田 雄飛	医療法人社団	山田病院	理事長	
	伊藤 雅史	社会医療法人社団	等潤病院	理事長	
	猪口 雄二	医療法人財団	寿康会病院	理事長	
	川内 章裕	医療法人社団	池袋病院	院 長	
	木村 厚	特定医療法人社団	一成会 木村病院	理事長	
	桑名 斉	社会福祉法人	信愛病院	理事長	
	小泉 和雄	社会医療法人社団	いずみ記念病院	理事長	
理 事	竹川 勝治	医療法人社団	愛和病院	理事長	
	内藤 誠二	医療法人社団	内藤病院	理事長	
	中西 泉	医療法人社団	町田慶泉病院	理事長	
	飯野 孝一	医療法人社団	飯野病院	理事長	
	石川 博久	医療法人財団	亀有病院	理事長	
	石田 信彦	医療法人社団	多摩リハビリテーション病院	理事長	
	沖野 光彦	医療法人社団	旗の台脳神経外科病院	理事長	
	片山 久	個人	片山病院	院 長	
	熊谷 頼佳	医療法人社団	京浜病院	理事長	
	東海林 豊	医療法人社団	東京さくら病院	院 長	
監 事	進藤 晃	医療法人財団	大久野病院	理事長	
	高野研一郎	個人	高野病院	院 長	
	土谷 明男	医療法人社団	葛西中央病院	理事長	
	野村 幸史	医療法人財団	野村病院	理事長	
	横山 孝	公益財団法人	第三北品川病院	理事長	
	木村 佑介	医療法人社団	佑和会 木村病院	理事長	
	戎井 重樹	監査法人	IAMI ージ -Iマック	代表社員	
	部会長	田野倉浩治	医療法人社団	永生病院	事務部長
		服部満生子	社会医療法人財団	河北総合病院	看護統括部長

新役員のご挨拶

定時総会の役員改選では、新役員として山田雄飛(山田病院理事長)、石川博久(亀有病院理事長)、石田信彦(多摩リハビリテーション病院理事長)、高野研一郎(高野病院院長)、土谷明男(葛西中央病院理事長)、横山孝(第三北品川病院理事長)の六名が就任しました。今回は、紙面上二名の新役員のご挨拶をご紹介しますが、次号に続きます。

医療法人社団葛西中央病院 理事長 土谷 明男



土谷 明男

「先生には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。」

一瞬戸惑った。正直に告白すれば、自分の無力を感じていたから。形式上はあることだとは思いつつも、家族から感謝の言葉を聞くとはその時は全く予想できなかった。

その人は腰痛で外来を受診した。朝、自宅で転倒したとのこと。高齢者の転倒なので脊椎圧迫骨折や大腿骨近位部骨折がないかレントゲンで確認する。レントゲン上、骨折なし。通り一遍の説明をして帰宅を促すが、家族は「何

か変だ」と訴え、入院を希望。当の本人は入院を拒んでいる。「何か」は家族もはっきり指摘できない。腰部打撲として入院した。

痛み訴えは軽度であったが、数日後右半身の麻痺が出現した。脳梗塞か。頭部CTで低吸収域を家族に示して脳梗塞と説明した。

後日の放射線科医の読影では脳腫瘍 glioblastoma 疑い。造影すると教科書通りの ring enhancement 転倒した結果の打撲が問題ではなく、転倒した原因の脳腫瘍が問題だった。そのころには麻痺が更に進行し会話はなりたないが介助で食事はできる。家族にもう一度説明した。積極的な治療は希望せず。介護量も多いが帰れるときに自宅に帰ることも提案したが、病院での療

養を希望された。入院から約二ヶ月で亡くなった。亡くなってから数日後、家族から話があった。亡くなった日は慌しくて先生にはきちんとお礼の言葉を伝えることができなかった。先生には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。」

その方には点滴を処方するだけで、しかも最終的な転帰は死亡。前年までは所属していた医局の関連病院に勤務し、ほとんど死亡診断書も書くこともなかった整形外科医・脊椎外科医としては敗北的なことと感じていた。にも拘らずご家族から感謝された。

昨年四月から働く環境が大いに変わった。提供できる医療レベルは決して高くない。今年五月からは当院の急な事情もあり往診もいくようになってきた。あいさつして、聴診器を胸に当て、血圧を測って、少し話をして処方箋を

手渡す。どの家にもいつても感謝される。その期待に応えないと。「地域医療とは？」私にとって始まったばかりですが、今後三十年のテーマとなります。どうぞよろしく願います。

医療法人財団亀有病院 理事長 石川 博久



石川 博久

この度、東京都病院協会理事を拝命致しました石川博久でございます。

東京都福祉保健局から MRワクチンの安定供給のための 協力依頼について

平成二十五年七月五日、東京都福祉保健局より、当協会に対して風しん対策のためのMRワクチンの安定供給のための協力依頼通知がありましたので、下記の通り簡潔に整理してご報告致します。

記

会報前号(第194号 6月25日発行)においては、都内における風しんの大流行を取り上げ、各院での感染防止対策を呼びかけさせていただいたところですが、今般、MRワクチンの接種者数が急増し、夏以降にMRワクチンが不足することも懸念される状況となっております。

こうした状況を受け、厚生労働省はワクチン製造販売業者に対し、前倒しの出荷及び増産の対応を依頼するとともに、安定供給の目途がつくまでの間、効果的な先天性風しん症候群の発生の予防及び今後の安定的な定期接種の実施のため、任意の予防接種について、妊婦の周囲の方、及び妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方で、抗体価が十分であると確認できた方以外の方が優先して接種を実施できるよう、各都道府県に対し、管内市町村及び関係機関に対して周知するよう依頼しております。また、ワクチンの安定供給のためには、特定の医療機関に供給が偏ることなく、各医療機関に適切な量が提供されることが必要であることから、医療機関に対し予約状況等を勘案した上で、必要最低限の量を発注いただくよう、協力の依頼がされております。

各院におかれましては、ワクチンの供給状況等をご勘案いただき、また、7月5日付の東京都通知についてもご確認をいただき、定期予防接種の対象者など必要度の高い方への接種機会の確保や、抗体検査と組み合わせた対応を行うなどのご協力をお願い申し上げます。

私は、平成六年に東京慈恵会医科大学を卒業後、亀田総合病院での研修を経て、同大学整形外科教室に入局しました。その後、他病院の勤務も経て平成二十一年より医療法人財団謙仁会亀有病院理事長に就任致しました。さて、ご承知の通りですが、高齢化社会を迎えた今日、医療財政、救急医療、医師確保等、様々な問題が発生する中で、東京都は大都市が故の医療問題を多数抱えております。また一方で、対応する医療機関へは医療費抑制政策に伴うしわ寄せが年々増大しているのも実状です。こうした山積した問題の中で医療政策と医療現場の大きく乖離した問題を少しでも改善していき、東京都民の健康増進と医療機関の発展のために貢献

第9回東京都病院学会のお知らせ

主題
「我々が地域を支える！」

開催日：平成26年2月16日(日)

会場：日本青年館

(JR千駄ヶ谷駅下車)

演題発表など会員病院各位の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

したいと考えております。微力ではございますが、皆様のご支援、ご指導を賜りながら使命を全うすべく所存でございますので、宜しくお願ひ申し上げます。

災害トリアージ研修会のご案内

主催 急性期医療委員会

東京都では、東日本大震災の教訓を踏まえ、平成24年11月、新たな東京都地域防災計画を発表しました。新たな計画では都内すべての病院の役割が明確化され、「災害拠点病院」、「災害拠点連携病院」、「災害医療支援病院」のいずれかに分類され、急性期だけではなく、慢性期の病院でもそれぞれの機能・役割に応じて傷病者の受け入れを分担することとなりました。

こうした状況を受け、研修会では、東京都の新たな災害医療体制について解説を加え、さらにこれまでトリアージについて学習したことのない方もご参加いただけるように、災害トリアージの概念や実際の行動についても解説します。特に一次トリアージに的を絞り、例題を通じてスタート式トリアージの技術の習得を目指します。さらにトリアージタグの記載方法についても簡単に学びます。

医師・看護師に限らず、より多くの病院職員の方々にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

記

日時：平成25年9月4日(水) 午後2時～4時

会場：東医健保会館(JR信濃町駅徒歩5分)

テーマ：「災害時の医療トリアージについて」

- ・東京都の新たな災害医療体制の解説
- ・1次トリアージの具体的な実施方法 等

講師：大桃丈知(白鬚橋病院 院長)

対象：病院職員(事務職員を含む)

参加費：会員 3,000円 非会員 6,000円
(当日会場で申し受けます)

定員：先着100名
(定員を超えた場合のみご連絡いたします)

【問い合わせ】東京都病院協会事務局 TEL：03-5217-0896

会務日誌・委員会報告 (五・六・七月)

五月二十三日

第一回事務管理部会

・事務管理部会総会について

・平成二十五年度事業活動について

五月二十四日

第二回看護管理部会

・今年度研修会について

五月二十九日

第一回環境問題検討委員会

・総量削減義務と排出量取引制度

第二計画期について

・平成二十五年度事業活動について

・東京電力からの情報提供について

第一回慢性期医療委員会

・平成二十五年度事業活動について

・高齢者の救急搬送問題について

六月十一日

第二回総務・経理委員会

・六月度理事会議題について

・定時総会について

六月十七日

第一回急性期医療委員会

・高齢者救急搬送アンケートについて

(報告)

・今年度研修会等について

六月二十五日

第二回環境問題検討委員会

・都内中小規模事業所の

地球温暖化対策報告書制度について

・東京電力による

病院の使用電力の変化について

六月二十六日

第二回事務管理部会

・事務管理部会総会について

・平成二十五年度事業活動について

第二回慢性期医療委員会

・慢性期医療(療養病床)を考える

国会議員の会について

・平成二十五年度事業活動について

・「高齢者救急」に関する

アンケート調査」のお願いについて

六月二十八日

第二回渉外・広報・会員組織委員会

・広報紙一九四号反省および

一九五号企画について

七月九日

第三回総務・経理委員会

・七月度理事会議題について

七月十二日

第三回看護管理部会

・今年度研修会について

PROUD TOWER

プラウドタワー
千代田富士見レジデンス

千代田
富士見の杜
CHYODA FUJIMI

緑地の奥に佇む邸宅へ。

都心の中核で、日本とフランスの美意識が響き合う。

千代田区富士見一丁目、リセ・フランコ・ジャポネ(東京国際フランス学園)跡地に建ち始める。

東京外口東西線 東京外口東西線・半蔵門線・都営新宿線
「飯田橋」駅より徒歩4分・「九段下」駅より徒歩7分

2駅7路線利用可

※掲載の眺望写真は、現地より北西約280m地点の地上約141mの高さより撮影(平成24年8月)したものを一部加工しており、実際の眺望とは異なり今後変更になる場合があります。※掲載の完成予想図は計画段階の図面を基に描いたもので実際とは異なります。また、今後変更になる場合があります。なお、外観の細部・設備機器・配管類等は一部省略又は簡略化しております。植栽につきましては特定の季節の状況を表現したものではありません。※タイルや各種部材につきましては、実物と質感・色等の見え方が異なる場合があります。

お問い合わせは「プラウドタワー千代田富士見レジデンス」サロン
0120-137-171 営業時間/平日11:00~18:00 土曜10:00~18:00 定休日/水・木曜日

■「プラウドタワー千代田富士見レジデンス」先着順販売概要 ●所在地/東京都千代田区富士見一丁目16番4(地番) ●交通/東京外口東西線「飯田橋」駅徒歩4分、JR中央総武線「飯田橋」駅徒歩6分、東京外口有楽町線・南北線、都営大江戸線「飯田橋」駅徒歩5分、東京外口東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅徒歩7分 ●総戸数/137戸(他にカーナールーム1戸、管理事務室1戸) ●販売戸数/7戸 ●構造・規模/RC造一部S造2階地下1階建(建築基準法上では地上2階地下2階建)敷地面積/3460.27㎡ ●用途地域/第一種住居地域、商業地域 ●間取り/2LDK~4LDK ●住戸専有面積/68.54㎡~86.36㎡ ●バルコニー面積/15.00㎡~19.22㎡ ●入居予定時期/平成26年3月下旬 ●分譲後の敷地の権利形態/専有面積割合による所有権の共有 ●管理形態/区分所有者全員に管理組合を結成していただき、運営・管理業務は野村リビングサポート株式会社に委託(予定) ●建築確認番号/第BC112本建確098変2(平成24年12月7日付) ●販売価格/9,010万円~13,380万円 ●管理費(月額)/26,200円~33,000円 ●修繕積立金(月額)/9,000円~11,340円 ●管理準備金(引渡時一括)/28,800円~36,300円 ●修繕積立基金(引渡時一括)/685,400円~863,600円 ●共聴聴施設使用料(月額)/368円 ●駐車場/69台(内機械式駐車場66台、平置3台※身障者優先駐車場1台、来客用駐車場1台、駐車場(平置)1台含む) (月額使用料/35,000円~45,000円) ●自転車置場/150台(スライドラック式) (月額使用料/300円) ●バイク置場/2台(平置き) (月額使用料/5,000円) ●ミニバイク置場/8台(平置き) (月額使用料/3,000円) ●トランクルーム使用料(月額)/2,000円 ●売主/野村不動産株式会社(国土交通大臣(12)1370号、(一社)不動産協会会員、(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟、本社:東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル ●販売提携(媒介)/野村不動産アーバンネット株式会社/国土交通大臣(3)6101号、(一社)不動産流通経営協会会員、(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟、東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル ●設計・監理/前田建設工業株式会社 一級建築士事務所 ●施工/前田建設工業株式会社 東京建築支店 ●先着順申込受付中※先着順販売につき、ご希望の住戸がご成約済みの方はご容赦ください。 ●受付場所/「プラウドタワー千代田富士見レジデンス」サロン ※申込の際はお認印・収入証明書・平成23、24年分源泉徴収票(写)または確定申告書(写)直近3年分(すでに住宅ローン事前審査において提出済みの方は必要ありません。)、ご本人様確認書類(運転免許証・健康保険証・パスポート等)原本をお持ちください。 ●広告有効期限/平成25年7月末日 ※上記概要は平成25年7月16日現在のものです。 ※表示価格には建物にかかる消費税(5%)相当額が含まれております。 ※掲載の駐車場・バイク置場・ミニバイク置場・自転車置場・トランクルームは全137戸に対しての台数および区画数となります。

モデルルーム公開中・先着順受付中

資料ご請求は提携法人様専用サイトから

プラウド法人

検索

(売主)

野村不動産